

【成果情報名】 諫早湾干拓地における夏ギクの窒素施肥量

【要約】 諫早湾中央干拓地における夏ギク栽培では、初期段階に2L率50%以上を確保するためには基肥窒素30kg/10aが必要であり、栽培3年目以降は基肥窒素20kg/10aでも基肥窒素30kg/10aと同等の2L率が得られる。

【キーワード】 諫早湾干拓、初期営農、夏ギク、窒素施肥量

【担当】 総合農林試験場・企画経営部・干拓科

【連絡先】 電話0957-35-1272、電子メールyamasaki0106@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】 総合・営農(干拓)

【分類】 指導

【背景ねらい】

諫早湾干拓地では環境保全型農業を前提としており、初期干拓土壌における夏ギクの栽培において目標とする品質（草丈90cm以上、調整重65g以上）を確保しつつ、環境に負荷の少ない栽培法について検討する。

【成果の内容・特徴】

1. 年次別の生育では、最初の2ヶ年は収穫時草丈の平均が90cm程度だが平成16年以降は100cmを超えている。

（表2）。

2. 出荷規格割合については、基肥窒素30kg/10aでは3ヶ年とも2L率が55%以上となり、基肥窒素20kg/10aでは最初の2ヶ年は30%程度だが、平成16・17年では概ね50%以上の2L率が得られる。

（表3）。

3. 収量の安定を考えると基肥窒素30kg/10aだが、環境保全型農業の面からは夏ギク3年目以降は基肥窒素20kg/10aが良い。

【活用及び留意点】

1. 諫早湾干拓地営農指針策定の基礎資料とする。

2. 施肥方法はほ場内均一全面散布とする。

3. 栽植及び栽培方法は長崎県農林業基準技術(平成11年1月)に準じ、堆肥は2t/10a投入。

[具体的データ]

表－1 キクの栽培概要

年次	定植日	電照処		収穫期間
		理終了	再電照処理	
2002年	4/26	6/23	なし	8/7～13
2003年	4/22	6/18	7/1～7/4	8/7～13
2004年	4/21	6/21	7/3～6	8/11～18
2005年	4/14	6/18	6/29～7/4	8/9～22

注1) 品種：「岩の白扇」

注2) 13.5×13.5cm・5目のフラワーネットに中1マスあけて
8条植え、直挿しにて定植を行い、ピンチで2本/株仕立て
栽植本数は47,500本/10a

注3) ビーナインは1000倍で2回散布

表－2 基肥窒素量の違いによる年次生育

年次	基肥 (kg/10a)	消灯時		収穫時
		草丈 (cm)	草丈 (cm)	切り花重 (g)
2002年	30	48.7	93.2	77.9
	20	49.7	91.6	77.2
2003年	20	47.9	92.7	64.0
	30	58.8	105.4	73.9
2004年	20	57.8	103.1	73.7
	30	51.5	103.3	81.0
2005年	20	49.5	100.3	77.0

表－3 基肥窒素量の違いによる年次出荷規格割合

年次	基肥 (kg/10a)	2L (%)	L (%)	M (%)	規格外 (%)
2002年	30	55	21	19	5
	20	30	19	40	11
2003年	20	36	14	45	6
	30	61	26	9	4
2004年	20	57	27	10	6
	30	56	18	9	17
2005年	20	48	19	19	15

注1) 階級は2L：90cm以上65g以上、L：90cm以上65g未満、
M：80cm以上90cm未満、外：80cm未満

[その他]

研究課題名：2) 諫早湾干拓営農対策試験(2)営農対策試験①作物施肥試験

予算区分：県単

研究期間：2005年度

研究担当者：山崎和之